

# 漁海況情報

平成20年5月9日 第4号(通巻363号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

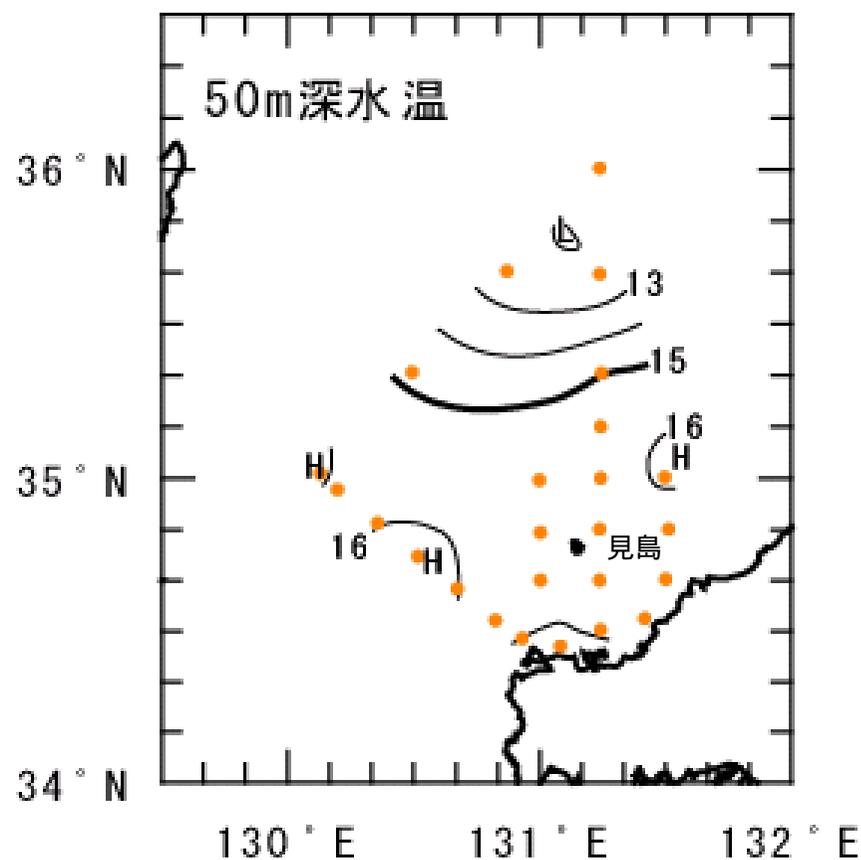
TEL: 0837-26-0711 FAX: 0837-26-1042 Mail: a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

## くろしおによる海洋観測速報

5月7~9日にかけて、漁業調査船「くろしお」で定線観測を実施しましたので、その結果をお知らせします。

### 【50m深の水温分布】

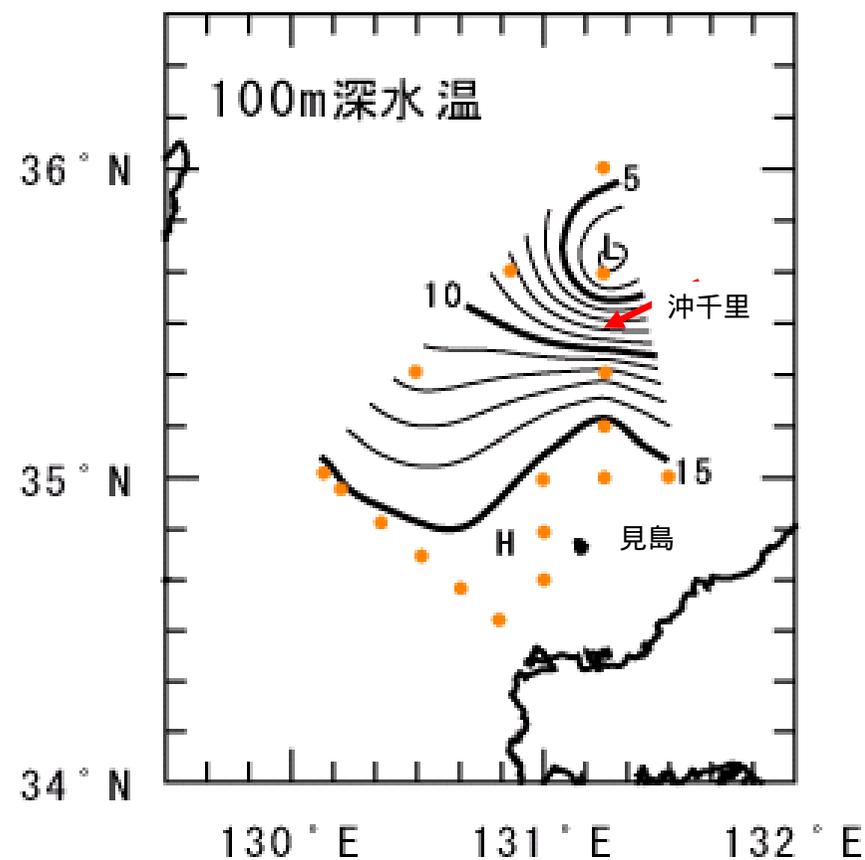
前月から約1~2℃昇温して、北緯35°20'以南は15~16℃台、北緯35°20'以北は12~14℃台となりました。見島から沿岸はやや高め(+0.5℃)で、見島から沖合においては平年並み(-0.2℃)でした。



### 【100m深の水温分布】

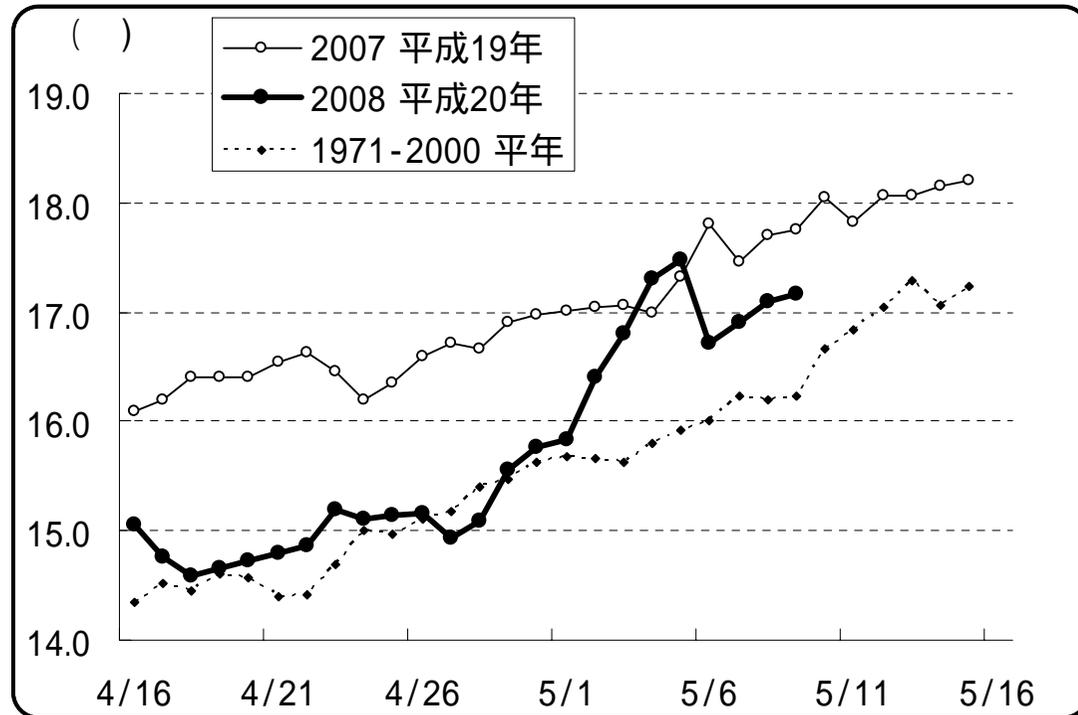
冷水域の南下が確認されました。北緯35°20'付近を境にして、沖合域は冷水の影響で10℃以下になっています。見島から沖合では、平年に比べかなり低め(-3.5℃)でした。沖千里付近の等温線が大変込み入っている様子がうかがえます。

見島から沿岸域は、平年並み(+0.5℃)でした。



## 【萩 - 見島フェリー観測の表面水温】

5月9日の萩 - 見島フェリーの観測による萩沖の表面水温は17.17で、前年に比べ0.58低め、平年に比べ0.94高めとなっています。下のグラフを見ると、4月16日以降は前年を下回り平年並みで推移していましたが、5月に入り平年を上回って推移しています。



萩NNW15マイル沖表面水温の推移 (4月16日以降)

## 【スルメイカ漁況情報】

### 平成20年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報

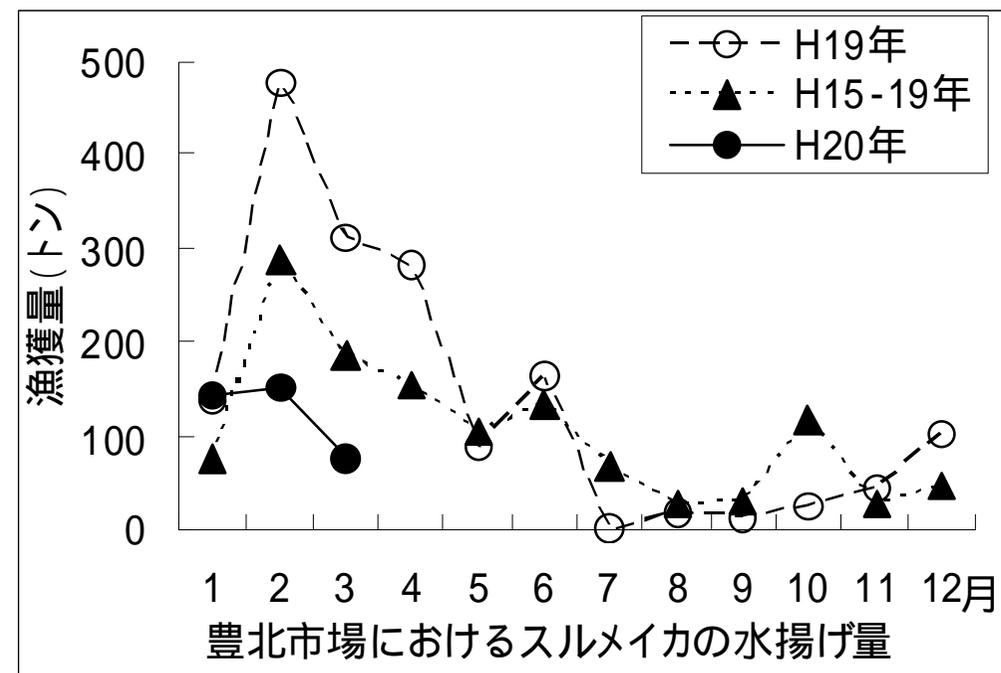
(平成20年4月28日、独立行政法人水産総合研究センター日本海  
区水産研究所発表)

今後の見通し (平成20年5月~7月)

- (1) 来遊量: 近年平均並み (昨年を上回る)  
ただし、5月の山陰では近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場: 北上が早く、漁期の経過は早い。
- (3) 魚体の大きさ: 近年平均並み。山陰では大型が少ない。

## 【山口県沖の漁況の経過】

山口県沖では例年2~3月が盛漁期ですが、今年の豊北市場における1~3月のスルメイカの水揚げ量は前年・平年 (H15~19年平均) を大きく下回りました。



## 【魚礁調査情報 (見島周辺)】

3月17~18日と4月30日~5月1日の2回にわたり、調査船「第2くろしお」で見島地先の間伐材試験礁と事業礁 (山口北地区漁場整備事業) の効果調査を実施しました (図1)。

水中テレビロボット (ROV) を使った観察では、いずれの調査に

おいても、イサキ(30~40 cm)、マアジ(30~40 cm)が数千尾蛸集していたほか、メダイ(通称ダルマ)、イシダイ、ウマツラハギがまとめて確認されました(図2)。

釣獲試験(一本釣りとしジギング:延べ10時間)では、ヒラマサ(60~70 cm:14尾)、アオハタ(通称キヨセ:39~53 cm:3尾)、クロソイ(30~40 cm:3尾)、カサゴ(30~35 cm:3尾)、マアジ(36 cm:3尾)、カンパチ(42 cm:1尾)、ホウボウ(35 cm:1尾)が漁獲されました。

タンポ流し試験操業(延べ21鉢:魚礁直上~中層仕掛け:日中)では、メダイ(50~60 cm:3尾)、ウマツラハギ(32 cm:1尾)が漁獲されました。

なお、上記の魚の大きさは全長で表示しています。



図1 今回の調査場所

【魚礁位置】日本測地系で表示しています。

間伐材試験礁(間伐材付き3基、間伐材なし3基、計6基のうち、西端の魚礁の位置)

34°45.027 N、131°07.133 E

事業礁(山口北地区漁場整備事業:12基のうち最も高い30m魚礁3基の位置です。周辺に21mの魚礁があります。)

34°44.801 N、131°06.676 E

34°44.801 N、131°06.937 E

34°44.582 N、131°06.676 E



図2 間伐材付鋼製魚礁(図1の )に蛸集するイサキなど